

## Grothendieck 群のノルム写像

北大理学部 丹原大介 (Daisuke Tambara)

$L/K$  が体の有限次分離拡大のとき,  $L$  加群  $V$  の Corestriction とよばれる  $K$  加群  $\text{Cor}_{L/K} V$  がある. 例えば  $L/K$  が  $G$  をガロア群とするガロア拡大のとき,  $\text{Cor}_{L/K} V$  は  $V$  の  $G$  による共役たちのテンソル積の  $G$  で固定される部分である.  $A$  が可換  $K$  代数なら同様に  $\text{Cor}_{L/K} : L \otimes A$  加群  $\rightarrow A$  加群がある. これは  $\otimes$  は保つが  $\oplus$  は保たない. しかし (射影加群の)  $K_0$  の間の写像  $K_0(L \otimes A) \rightarrow K_0(A)$  を  $L \otimes A$  加群  $V$  の類  $[V]$  を  $[\text{Cor}_{L/K} V]$  にうつすように定義できる. このことの証明とそれに関連することからついでにのべる.

### § 1 $K_0$ の norm map

$L/K$  は体の有限次分離拡大.  $\tilde{K}/K$  は  $L$  を含む有限次ガロア拡大で,  $G = \text{Gal}(\tilde{K}/K)$ ,  $H = \text{Gal}(\tilde{K}/L)$ . すると  $G/H$  は  $\phi = \text{Hom}_{K\text{-alg}}(L, \tilde{K})$  と同一視される.  $L$  加群  $V$  に対し  $\phi \mapsto \phi : L \rightarrow \tilde{K}$  による係数拡大  $\tilde{K} \otimes V$  を  $\phi V$  で表わす.

$G \ni \sigma : R \rightarrow R$  による係数拡大  $R \otimes_R (\ )$  も  $\sigma_*(\ )$  で表わす。  
 $L$  加群  $V$  に対して  $R$  上のテンソル積  $\otimes_{\rho \in G} \rho_* V$  をつくるこゝ、自然な同型  $\sigma_*(\otimes_{\rho \in G} \rho_* V) \cong \otimes_{(\sigma\rho) \in G} \rho_* V \cong \otimes_{\rho \in G} \rho_* V$  は  $\otimes_{\rho \in G} \rho_* V$  上に  $G$  の semi-linear action を与える。  $\Sigma :=$

定義:  $\text{Cor}_{L/K} V = (\otimes_{\rho \in G} \rho_* V)^G$  ( $G$  不変元の全体)

とすると,  $\text{Cor}_{L/K} V$  は  $K$  加群で  $R \otimes \text{Cor}_{L/K} V \cong \otimes_{\rho \in G} \rho_* V$ .

注1.  $f : X \rightarrow Y$  が scheme の etale covering なら  $X$  上の locally free module  $F$  に対し,  $\text{Cor}_{X/Y} F$  が同様に定義される。

注2.  $A$  が  $L$  上の (not neces. commutative) algebra なら

$\text{Cor}_{L/K} A$  は  $K$  上の algebra で,  $\text{Cor}_{L/K} : A \text{ 加群} \rightarrow \text{Cor}_{L/K} A \text{ 加群}$  も定義される。

注2'.  $X$  が  $L$  上の scheme なら Restriction of scalars  $\Pi_{L/K} X$  は  $K$  上の scheme で  $\text{Cor}_{L/K} : X \text{ 加群} \rightarrow \Pi_{L/K} X \text{ 加群}$  が定義される。

これらのそれぞれの場合に、ル・A 写像  $K_0(X) \rightarrow K_0(Y)$ ,  $K_0(A) \rightarrow K_0(\text{Cor } A)$ ,  $K_0(X) \rightarrow K_0(\Pi_{L/K} X)$  がひまおこされる。

注1 の場合の証明を与える。

一般に  $Z$  が有限群  $G$  の作用する scheme のとき有限  $G$  集合  $A$  に対して  $(P(X)^A, G)$  で次のようなものを対象とする圏をあらわす。  $\{F_a (a \in A), \varphi_{\sigma, a} (\sigma \in G, a \in A)\}$  . ここで

$F_a \in P(Z)$  i.e.  $Z$  上の locally free module,  $\varphi_{\sigma, a} : \sigma^* F_{\sigma a} \xrightarrow{\sim} F_a$  s.t.  $\varphi_{\sigma, a}$  たゞは結合法則をみたす. これは完全圏で  $K_0 = K_0(P(Z)^A, G)$  がある.  $Z \rightarrow Y$  が étale Galois covering のときは,  $(P(Z)^{\{1 \text{ 点} \}}, G) \simeq P(Y)$ ,  $(P(Z)^G, G) \simeq P(Z)$  で  $\text{Cor} : P(Z) \rightarrow P(Y)$  は  $\{F_\sigma\}_{\sigma \in G} \mapsto \bigotimes_{\sigma \in G} F_\sigma$  に対応する. 一般の場合に  $G$  集合の射  $f : A \rightarrow A'$  があれば,  $f^* : K_0(P(Z)^{A'}, G) \rightarrow K_0(P(Z)^A, G)$ ,  $f_* : K_0(P(Z)^A, G) \rightarrow K_0(P(Z)^{A'}, G)$  がひきおこされる.  $S$  は  $G$  集合  $\mathbb{Z}$  が与えられたとして,  $S = 2^{\mathbb{Z}} = \{\mathbb{Z}$  の部分集合  $\}$ ,  $S' = \{(U, U') \in S \times S \mid U \cap U' = \emptyset\}$  とおく.  $G$  写像  $j : S' \hookrightarrow S \times S$ ,  $u : S' \rightarrow S$  ( $(U, U') \mapsto U \cup U'$ ) がある.  $K_0(P(Z)^S, G)$  上に演算  $\cup$  を

$$\begin{aligned}
 \cup : K_0(P(Z)^S, G) \times K_0(P(Z)^S, G) &\xrightarrow{\boxtimes} K_0(P(Z)^{S \times S}, G) \\
 &\xrightarrow{j^*} K_0(P(Z)^{S'}, G) \xrightarrow{u_*} K_0(P(Z)^S, G)
 \end{aligned}$$

で定義する. また  $F = \{F_\sigma\}_{\sigma \in \mathbb{Z}} \in (P(Z)^{\mathbb{Z}}, G)$  に対して

$\{\bigotimes_{\sigma \in U} F_\sigma\}_{U \subset \mathbb{Z}}$  の  $K_0(P(Z)^S, G)$  での類を  $\beta(F)$  とおく. 次の二点を示される.

•  $+$ ,  $\cup$  に関し  $K_0(P(Z)^S, G)$  は graded ring

•  $0 \rightarrow F' \rightarrow F \rightarrow F'' \rightarrow 0$  (exact) ならば  $\beta(F) = \beta(F') \cup \beta(F'')$

また  $\beta(F) = 1 + (\text{degree} > 0)$  の形で  $K_0(P(Z)^S, G)$  の可逆元.

これで abel 群の準同型  $K_0(P(Z)^{\mathbb{F}}, G) \rightarrow K_0(P(Z)^S, G)^*$  s.t.

$[F] \mapsto \mathcal{P}(F)$  が定まる.  $\{\mathbb{F}\} \subset S$  の制限をよれば

$K_0(P(Z)^{\mathbb{F}}, G) \rightarrow K_0(P(Z), G) \quad [L_{\mathbb{F}}] \mapsto [L_{\mathbb{F}}]$  がえられる.

注 1 の場合,  $Z \rightarrow Y$  を etale Galois として  $X = Z/H$ ,  $H \trianglelefteq G$ ,

$\mathbb{F} = G/H$  とすれば, これが  $\text{Cor}_{X/Y} = K_0(X) \rightarrow K_0(Y)$  と与える.

注 4. affine の場合には  $K_0(X)$  の relation は直和によるものであり,

このような場合に  $\oplus$  を保たないある種の関手  $K_0$  上の

operation に拡張する方法として, Dress の多項式写像の方法がある.

これは有限群の表現環上で乗法的 induction を定義するの

のに使われた ([2]). 上のやり方は relation が完全列による

場合にも使えるので, [2] で使われた relative な表現環

上で乗法的 induction を定義することが出来る.

注 5.  $Y \rightarrow Z$  が  $n$  次の etale covering で  $Y, Z$  は体上の non-

singular variety とする.  $Y, Z$  の  $K_0$  は coherent sheaf の  $K_0$  と

同一視され,  $\text{Fil}^k K_0$  を  $\text{codim Supp } F \geq k$  なる coherent  $F$  の類で生

成される  $K_0$  の部分群とする. norm map  $K_0(Y) \rightarrow K_0(Z)$  は

$\text{Fil}^k K_0(Y)$  を  $\text{Fil}^{kn} K_0(Z)$  にうつす. また rational equivalence

ring についても norm map  $A^k(Y) \rightarrow A^{kn}(Z)$  が定義出来る

注 6.  $L/K$  が  $n$  次のがロア拡大のとき、写像  $K_{2r}(L) \rightarrow K_{2nr}(K)$  で  $K_{2nr}(K) \rightarrow K_{2nr}(L)$  を合成すると  $x \mapsto \prod_{\sigma \in G} x^\sigma$  となるものはあるか?

## § 2. Mackey $\lambda$ -ring

vector bundle の exterior power  $F \mapsto \wedge^i F$  は  $K_0(X)$  上の operation  $\lambda^i : [F] \mapsto [\wedge^i F]$  をひきおこす.  $\lambda^i$  たち の  $K_0(X)$  への作用の仕方を抽象化して operation の環  $\mathcal{U} = \mathbb{Z}[\lambda^1, \lambda^2, \dots]$  を考え  $\mathcal{U}$  が同じような仕方で作用する環を  $\lambda$ -ring といい.  $\mathcal{U}$  はいろいろの構造をもち, 任意の可換環  $S$  に対して  $\text{Hom}_{\text{ring}}(\mathcal{U}, S)$  は可換環になる.  $\mathcal{U}$  または  $\text{Hom}_{\text{ring}}(\mathcal{U}, -)$  は universal ring とよばれる.  $X \rightarrow Y$  が  $G$  をガロア群とする etale covering のとき, 各部分群  $H \leq G$  ごとに operation  $\lambda^i : K_0(X/H) \rightarrow K_0(X/H)$  があるが, この他に  $H \leq H' \leq G$  のとき, pull back  $K_0(X/H') \rightarrow K_0(X/H)$ , trace  $K_0(X/H) \rightarrow K_0(X/H')$ , norm  $K_0(X/H) \rightarrow K_0(X/H')$ ,  $H$  の基礎体  $K$  上の指標環  $R(H)$  の作用  $R(H) \otimes K_0(X/H) \rightarrow K_0(X/H)$  がある. これらの operation たちから universal ring に相当するものを定義する. 以下有限群  $G$  と体  $K$  を固定する.

定義:  $M$  が Mackey functor とは有限  $G$  集合  $A$  に対し abel 群  $M(A)$  が対応し,  $G$ -map  $f : A \rightarrow A'$  に対し 2 つの導同型  $f^* : M(A') \rightarrow M(A)$ ,  $f_* : M(A) \rightarrow M(A')$  が対応し, 次のみたすこ

とをいう。

(i)  $f \mapsto f^*$ ,  $f \mapsto f_*$  は関手.

(ii)  $M$  は直和をたもつ.

$$(iii) \quad \begin{array}{ccc} A & \xrightarrow{h} & B \\ f \downarrow & & \downarrow g \\ A' & \xrightarrow{h'} & B' \end{array}$$

が pull back diagram ならば  $g^* h'_* = h_* f^*$ .

$G$  集合  $G/H$  に対し  $K[H]$  の Gro. group を  $R(G/H)$  として Mackey functor  $R : G/H \mapsto R(G/H)$  がえられる。以下  $R$  はこれを表わす。2つの Mackey functor  $M, N$  から Mackey functor  $M \otimes N$  をつくれるので, Mackey functor としての ring ( $R$  はこれ),  $R$ -algebra が自然に定義される。可換な  $R$ -algebraのみ考える。 $R$ -algebras から  $R$ -algebras  $\Lambda$  のある関手  $\Lambda$  と自然変換  $w : \Lambda \rightarrow \Lambda \circ \Lambda$  が定義され,  $\Lambda$  は Mackey  $\lambda$ -ring とは  $R$ -algebra  $S$  での可換性をみたす  $R$ -algebra homomorphism  $\lambda : S \rightarrow \Lambda(S)$  のあるものをいう。

$$\begin{array}{ccc} S & \xrightarrow{\lambda} & \Lambda(S) \\ \lambda \downarrow & & \downarrow \Lambda(\lambda) \\ \Lambda(S) & \xrightarrow{w(S)} & \Lambda \circ \Lambda(S) \end{array}$$

普通の  $\lambda$ -ring とは  $\Lambda(S) = \text{Hom}_{\text{ring}}(u, S) = 1 + S[[\tau]]^+$  である。

(初項が1の形式中級数の環)  $\Lambda, w$  の定義は講演で詳

$\lambda$  の値はある Mackey functor (R-algebra)  $u_A$  により  $\lambda(S)(A) = \text{Hom}_{R\text{-alg}}(u_A, S)$  と表現される。  $u_A$  が universal ring に相当するもので、大ざっぱに言っておくならば  $(\underbrace{GL \times \dots \times GL}_{\#A}) \times G$  の多項式表現の Grothendieck 環から元とれる。  $X$  が  $G$  の作用する  $K$  上の scheme のとき、  $G/H \mapsto K_0(\{X \text{ 上の } H\text{-bundle}\})$  は Mackey  $\lambda$ -ring になる。これはこの section のはじめにあげた operation たちの formal 関係性をひとまとめに表わしている。

### §3. Polynomial functors

§2 のはじめにのべた operations の  $K_0$  への作用は polynomial functor の  $X$  上の module への作用からきている。  $u = \mathbb{Z}[\lambda^1, \lambda^2, \dots]$  は  $K$  加群から  $K$  加群への polynomial functors の Gro. ring であるが、我々の場合は、体拡大  $L/K$  に対して  $L$  加群から  $K$  加群への  $K$  上の polynomial functors を考えることになる。 ([3] では  $K$  が標数 0 の bodies のとき  $K$  上有限次の algebra  $A$  上の射影加群の圏から  $K$  加群の圏への polynomial functor があつかわれている)  $D$  が  $K$  上有限次の斜体で中心が  $K$  上分離的のとき、  $D$  加群から  $K$  加群への  $K$  上の polynomial functors の Gro. ring が求まるが複雑な形をしている。

## REFERENCES

1. P. Berthelot, Généralités sur les  $\lambda$ -Anneaux, SGA 6
2. A.W.M. Dress, Operations in representation rings, Proc. Symposia in Pure Math. XXI (1971)
3. I.G. Macdonald, Polynomial functors and wreath products, Journal of Pure and Applied Algebra 18 (1980)